



平成30年12月17日

平成30年度手づくり郷土賞の大賞部門で

「小樽雪あかりの路実行委員会」がグランプリを受賞！

～北海道内から初のグランプリ受賞！～

「手づくり郷土賞受賞記念発表会～グランプリ2018～」において、北海道内から「**グランプリ2018**」の大賞部門に、「**小樽雪あかりの路実行委員会**」が選定されました。大賞部門、一般部門通じてグランプリが平成28年度に創設されて以来、北海道内から初のグランプリ受賞となりました。

また、一般部門で北海道内から「新川さくら並木連合町内会」（札幌市）、「緑道ワークス」（旭川市）、「特定非営利活動法人増毛山道の会」（増毛町）の3団体がプレゼンテーションを行いました。

国土交通省は、平成30年度手づくり郷土賞（国土交通大臣表彰）に選定された全23団体（大賞部門3団体、一般部門20団体）による活動報告を通じて全国に優れた取組が広がることを目的に、受賞記念発表会を12月16日に開催しました。

発表会では、選定団体がプレゼンテーションを行い、手づくり郷土賞選定委員会の選考により、「大賞部門」は小樽雪あかりの路実行委員会（北海道小樽市）、「一般部門」はJR大歩危駅活性化協議会（徳島県三好市）がそれぞれのグランプリに決定しました。

また、会場参加者の投票により「ベストプレゼン賞」にJR大歩危駅活性化協議会（徳島県三好市）が決定しました。

今後、それぞれの活動地域において授与式を予定しています。詳細が決まり次第、別途お知らせします。

【グランプリ2018（大賞部門）】

○案件名：小樽雪あかりの路

団体名：小樽雪あかりの路実行委員会（北海道小樽市）

※「手づくり郷土賞受賞記念発表会」の開催結果は、別添資料をご参照ください。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発調整課 課長補佐 新妻 憲嗣（内線 5475）

開発監理部 開発調整課 上席開発計画専門官 木村 康一（内線 5470）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



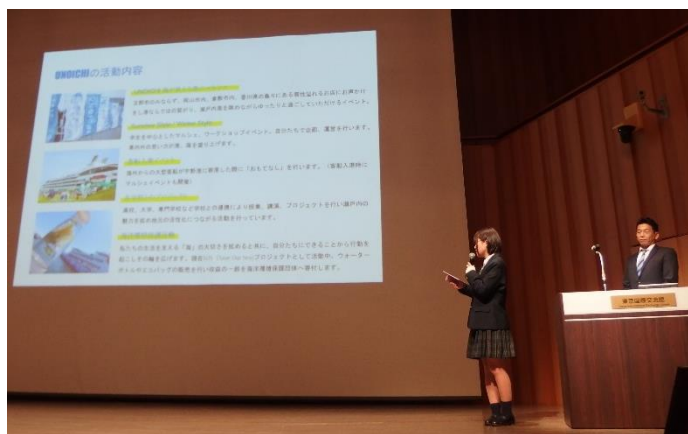
手づくり郷土賞受賞記念発表会 ～グランプリ2018～では、平成30年度手づくり郷土賞を受賞した全23団体からプレゼンテーションいただき、手づくり郷土賞選定委員会の選考により、一般部門、大賞部門それぞれのグランプリを決定しました。

また、グランプリのほか、会場参加者の投票により、ベストプレゼン賞も決定しました。

〔概要〕

- | | |
|-----|---|
| 日時 | 平成30年12月16日(日)12時30分～16時10分 |
| 場所 | 東京国際交流館 プラザ平成 3階 国際交流会議場
(東京都江東区青海2-2-1) |
| 内容 | 1) 平成30年度「手づくり郷土賞」選定団体による
活動プレゼンテーション(23団体)
2) グランプリ(一般部門、大賞部門)の発表、講評 |
| 参加者 | 約140人(参加団体、一般参加者等) |

発表会の様子



受賞団体からの感想

■グランプリ2018(一般部門) / ベストプレゼン賞2018

JR大歩危駅活性化協議会



地域の一人ひとりが一日一日を積み重ねた結果だと思えます。次世代へつなげていくために粉骨砕身、頑張っていきたいです。今回、世界中の多くの人にお力をお借りしました。次は大賞をいただけるように継続して頑張っていきたいです。

■グランプリ2018(大賞部門)

小樽雪あかりの路実行委員会



設立から20年経ち、先輩方から引き継いできたものがあります。小樽の景観を守っていきつつ、これからどう活かしていくか考えており、問題点も出てくると思いますが、今回いただいた賞を励みに、氷点下の気温のなかで、また新たに雪あかりの路をつくっていきたいです。

グランプリ2018(一般部門) / ベストプレゼン賞2018: JR大歩危駅活性化協議会

地域の駅から世界の大歩危駅へ



様々な取組が生まれる「キッチン会議」



大歩危駅の桜の植樹

平成22年10月に無人化されたJR大歩危駅に賑わいを取り戻そうと、同年11月に協議会を設立。地域の方が意見交換する「キッチン会議」で様々なアイデアを出し合い、駅構内や周辺の清掃活動や桜の苗の植樹、桜のライトアップ等を行っている。また駅事務所を休憩所兼観光案内所に改装したほか、観光情報が入手できるよう、インターネット環境を整備した。駅利用者は、平成22年の約2万5千人から、平成30年には約4万人に増加する見込みであり、活動の結果、駅の利便性の向上や地域の活性化に寄与している。

グランプリ2018(大賞部門): 小樽雪あかりの路実行委員会

小樽雪あかりの路



小樽雪あかりの路小樽運河会場



海外からも参加する多数のボランティア

厳寒地の冬の夜という、従来では観光資源として考えられなかった要素に注目し、寒いからこそ感じられる北の旅愁、人の温もりを伝える「静のイベント」として、延べ12万本のキャンドルの灯りが歴史的遺産である小樽運河など街の夜を演出するイベントを開催。

地域資源を活用することで地域住民の郷土愛が醸成され、海外ボランティアが小樽の魅力を自国で発信することで国際的な観光PRにも繋がっている。また、冬場の宿泊客数の増加、通過型から宿泊滞在型への移行、地域経済の活性化などにも寄与している。